



明野の歴史をたどる

発行 ■「人が安心・明野創生」実行委員会 明野の歴史・魅力発見事業部会

「明野」地名の命名

昭和20年(1945年)、終戦時の食糧難、社会的混乱期に明治村猪野山(現・明野一帯)に開拓者の入植(42戸)が始まり、自給自足の困難な生活であった。昭和23年(1948年)開拓地一帯を総称する地名を、明治村の「明」と猪野の「野」をもって、「明野」と命名された。それには「明け行く野原」「明るい山野」の意も含んでいる。以来、現在の行政区「明野」として引き継がれている。

大分臨海工業地帯の建設

昭和39年(1964年)、大都市における人口や産業の過度の集中を避け、国土の均衡ある発展に資するため「新産業都市建設促進法」が制定され、全国13地区の中に大分地区も指定された。その指定により臨海工業地帯の造成計画や企業誘致が一層促進された。当時の大分県は後進的農業県であり、工業県に移行し県民所得を伸ばし、地元雇用の増大(関西、東京へ集団就職の時代)を図るため、「大分鶴崎臨海工業地帯の造成計画」を策定し、漁業補償等に対応しながら、昭和34年(1959年)から埋め立て工事を開始した。

企業の立地

・昭和39年(1964年) 大野川左岸の1号地に九州石油株式会社大分製油所(現・ENEOS(株)大分製油所)が操業。
・昭和44年(1969年) 九州電力株式会社大分発電所が操業。
・昭和44年(1969年) 大分石油化学コンビナートが操業。
・昭和47年(1972年) 新日本製鐵株式会社大分製鐵所(現・日本製鐵株式会社九州製鐵所大分地区)の高炉に火が入る。

*「大分臨海工業地帯」建設「第一期計画」は着実に進展した。

明野の歴史をたどる 3つの時代

❖「明野団地」の開発と形成

昭和32年(1957年)大分県は、大分鶴崎臨海工業地帯の計画決定並びに企業誘致計画に基づき、新産業都市開発を進め、大分鶴崎の海岸埋立を開始した。昭和39年(1964年)、大分地区新産業都市の指定を受け、企業に働く社員の住宅用地として、臨海工業地帯の背後地で、居住環境の良好な「明野開拓地」が新住宅市街地開発法の適用を受けて開発に着手した。その後、周辺地区を民間業者が宅地開発し明野地区に

編入。現在、県内最大規模の住宅地として明野団地を形成している。ただし、明野団地の歴史は、前史に当たる開拓団地時代と、さらに、明野団地一帯を明治村猪野山と呼んでいた明治22年(1889年)から昭和20年(1945年)の終戦まで遡らなければならない。したがって、明野団地の歴史を学ぶとき、**1明治村猪野山時代** **2明野開拓団地時代** **3明野団地開発以降**の三つの時代に区分して迎えることになっている。

1 明治村猪野山時代 明治22年(1889年)～昭和20年(1945年)

・明治22年(1889年)、市制町村制が施行。
明治村誕生(猪野村、横尾村、小池村、葛木村が合併)
現在の明野一帯を「明治村猪野山」と呼ぶ。

・(現)天然塚公園一帯
天然上人の墓(1505年没) 4月10日(追善供養)
草競馬場(明治28年～太平洋戦争激化時廃止)
明治地区戦没者(太平洋戦争)の集合墓地。

- 時代背景ポイント地点**
- ①八坂神社(猪野)……………[F-3]
 - ②八坂神社(小池原)……………[F-1]
 - ③鉾神社(葛木)……………[G-2]
 - ④水分社(二目川)……………[E-4]
 - ⑤若宮八幡(森)……………[森町]
 - ⑥天神社(岡原)……………[F-5]
 - ⑦法雲寺……………[G-5]
 - ⑧常妙寺……………[G-3]
 - ⑨天然上人の塚……………[D-2]
 - ⑩招魂社(現・大分縣護國神社)……………[A-1]
 - ⑪丸尾山……………[B-3]
 - ⑫明治小学校……………[F-3]
 - ⑬民衆信仰の地藏尊(東原[C-1]、二目川[E-4]、猪野[F-2]、葛木[G-3])
 - ⑭キリシタン殉教公園……………[G-3]
 - ⑮戦没者墓地……………[D-2]
- ・明治8年(1875年)、松葉山に招魂社を創建。その後昭和14年(1939年)に大分縣護國神社に改称。

2 明野開拓団地時代 昭和20年(1945年)～昭和36年(1961年)

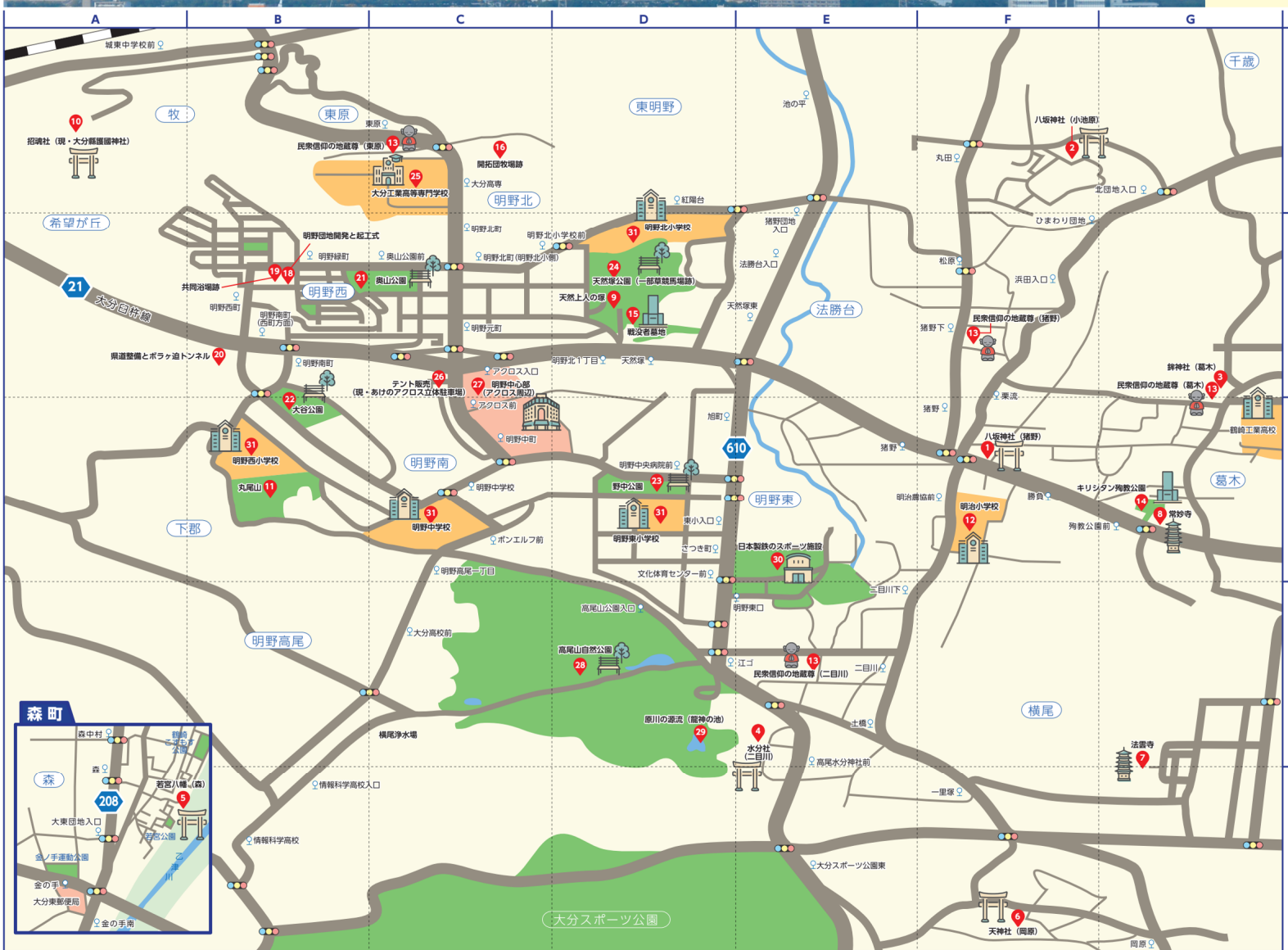
・昭和20年(1945年)開拓者入植。雑木林開墾、自給自足の生活。
・昭和23年(1948年)明治村の「明」と猪野の「野」をもって、地名を「明野」と命名。
・昭和36年(1961年)、開拓団解散(大分県用地買収)。

- 時代背景ポイント地点**
- ⑯開拓団牧場跡……………[C-1]
 - ⑰開拓団の生活と解散……………現在の明野地区の一部

3 明野団地開発と諸行事 昭和36年(1961年)開拓団解散以降～

・昭和37年(1962年)新産業都市建設促進法の認可。
・昭和38年(1963年)新市街地住宅法の認可。
・昭和39年(1964年)「明野開拓地」開発事業方針決定。
・昭和40年(1965年)11月13日、明野団地開発起工式。
・昭和45年(1970年)第1回明野まつり
・昭和54年(1979年)第1回明野大体育祭
・平成8年(1996年)第1回明野芸能祭
・平成27年(2015年)明野団地開発50周年記念事業。
「明野創生ビジョン」策定。
「明野のあゆみ」復刻版(第2部)発行。
・平成30年(2018年)「明野地域まちづくりビジョン」策定。

- 時代背景ポイント地点**
- ⑱明野団地開発と起工式……………[B-2]
 - ⑲共同浴場跡……………[B-2]
 - ⑳県道整備とボラケトンネル……………[B-2]
 - ㉑奥山公園……………[B-2]
 - ㉒大谷公園……………[B-3]
 - ㉓野中公園……………[D-3]
 - ㉔天然塚公園(一部草競馬場跡)……………[D-2]
 - ㉕大分工業高等専門学校……………[C-1]
 - ㉖デント販売……………[C-2](現・あけのアクロス立体駐車場)
 - ㉗明野中心部……………[C-2](アクロス周辺)
 - ㉘高尾山自然公園……………[D-4]
 - ㉙原川の源流(龍神の池)……………[D-4]
 - ㉚日本製鐵のスポーツ施設……………[E-3]
 - ㉛明野地区の市立小中学校(明野西小[B-3]、明野中[C-3]、北小[D-2]、東小[D-3])



明野の歴史をたどる

①～⑥ 明治の六社②原川の源流



現在の明治地区は、かつて明治村（明治22年）と呼ばれ、それぞれの集落の中心として、代々氏子によって地域の人の信仰の中心として、代々氏子によって守り継がれ、夏は緑陰、憩いの場として活用されている（若宮八幡は森地区に移転）。なかでも水神社（あくましりや）は明野に近く、高尾山公園の一角に位置し、隣接する「龍神の池」は明野を南北に縦断する原川の源流となっている。

⑦丸尾山



現在の西小学校が位置するところが丸尾山であった。猿、狸や兎が生息し、特にまむしが多かったことから村人は「まむし山」と呼んでいた。また、秋には菰藁狩りを楽しむなど、自然豊かな場所でもあった。太平洋戦争が激化してくると軍事基地として重要性が高まり、高射砲も設置され兵舎等も建設された。戦後は食料不足から開拓地となった。

⑦法雲寺⑧常妙寺



法雲寺の開基は古く、康永3年（1344年）である。一時期、尼僧の住職が続き、増上院福智院寺と呼ばれていた。豊臣秀吉の九州征伐により建物を消失したが再建された。数々の出来事を経て、現存する寺はおよそ200年前に建てられた。境内には天神社があり、神仏混交の寺である。常妙寺は、永正2年（1505年）室町時代に創建された。都町の繁華街にあったが、平成4年現在地に移転。境内には天神様のお堂がある。大分で一番古い天神様と言われている。

⑨天然塚公園と⑩戦没者墓地



天然塚公園は鶴崎地区の森町にある専修寺開基の天然上人（1505年没）のお墓があることから、その名がつけられた。明治28年（1895年）には近郊の農家が「草履馬場」を造り、年2回天然上人の縁日に合わせ自慢の農耕馬を競い、弁当持参で家族くみで楽しんでいた。その後、太平洋戦争が激しくなり中止された。戦中はここに兵舎が設置されていた。戦後、公園の一角には明治地区出身で戦没された方々の先陣がまつられている（特徴）が約140基も設置されている。戦死者の中には若者も多く、戦争の悲惨さが伝わる。

⑪招魂社（現・大分縣護国神社）



明治8年（1875年）、慰霊鎮魂のため「招魂社」として創建された。以来、明治、大正、昭和と国のため殉じた英霊を祀っている。昭和14年（1939年）は大分縣護国神社と改称し、昭和18年（1943年）には皇國の勤勞奉仕により現在地に社殿の大造営が完成した。現在、春秋の大会や戦没者の慰霊祭などが行われ、県下全域から多くの参拝者が訪れている。大分縣護国神社は風早地区松栄山と隣接し、天然生常緑広葉樹林に囲まれた広い苑地は花等四季折々の趣があり、人々に鎮守の森として親しまれている。

⑫キリシタン殉教公園



天分20年（1551年）、フランシスコザビエルが府内（大分）に来て以来、大友宗麟の保護と宣教師の布教によって、特に明治地区には、キリスト教信者が増えいった。当時の徳川幕府はキリスト教に社敵の大造営が完成した。死者は公然と供養されることもなく年月が過ぎていった。大分県キリシタン史跡顕彰会は、殉教者の信仰の礎を偲び、その霊を慰め、不幸な歴史を繰り返さぬため、最も殉教者の多かった墓木のたもとに記念公園を造った。

⑬開拓回牧場跡



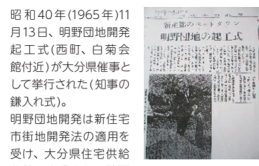
平成の末まで開拓回時代の牧場が細々と残っていた。牧場を開拓した初代は戦後外国から引き揚げてきた人で、その後は開拓団二世が引き継ぎ肥育牛を飼っていた。牧草地は遊休地となっており、すでに牧場の一部は住宅地となり賃貸家屋が建っている。しかし、残った牧草地も令和5年に宅地造成され、新しく生まれ変わるようになっている。

⑭開拓団の生活と解散



敗戦後の経済社会の崩壊は、食糧事情を一層窮乏に追い込んだ。一方で農具、海外引き揚げ者、離職者など予想を上回る失業者の増加で対策が急がれた。そこで国の政策として開拓事業が推進され、明治村猪野山も開拓地として昭和20年（1945年）から入植が始まった。厳しい自給自足の開拓団生活は、掘削小屋や壊れた兵舎を活用しながら日々の生活に追われていた。昭和29年（1954年）には鶴崎市当局において自衛隊隊員の起りがなされたが、開拓団が絶対反対の決議と反対運動を展開し、中止となり開拓地を手放した。その後昭和36年（1961年）に大分県が住宅地開発のため開拓団用地を買収し、開拓団は解散した。

⑮明野団地開発と起工式



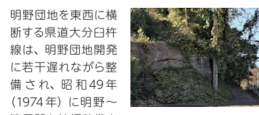
昭和40年（1965年）11月13日、明野団地開発起工式（西町、白菊会館付近）が大分県庁として挙行された（知事の鎮入れ式）。明野団地開発は新住宅市街地開発法の適用を受け、大分県住宅供給公社の事業として計画的に進められた。昭和42年（1967年）、県営住宅に第一陣が入居した。

⑯共同浴場跡



県営住宅が建設された当時は個別の浴場がなく、一時期、現在の白菊会館（西町）付近に共同浴場が開設されていた。その写真が残されている（提供：緑町 故後藤喜久男さん）。上記の写真は貴重なその一枚である。当時の入浴料金・大人 32円、小学生 15円

⑰県道整備とボラケ迫トンネル



明野団地を東西に横断する県道大分日拝線は、明野団地開発に若干遅れながら整備され、昭和49年（1974年）に明野一鴻尾間も拡幅整備された。それまでは現在の明野第2陸橋の真下にボラケ迫トンネル（延長47m、幅員3.7m、高さ4.5m）があり、一車線のトンネル内を大分バスが通っていた。県道大分日拝線の拡幅整備と共に県道となり、現在出入口は塞がれ草木が茂っている。

⑱奥山公園⑳大谷公園㉑野中公園



この三つの公園は、明野団地に計画的に配置された近隣公園である。奥山公園は緑町に位置し、第1回～3回まで明野まつりの主要会場として使用された。大谷公園は南町の中心部に位置し、多くの緑が繁り朝方の散策に利用されており、多くの緑が繁り朝方の散策に利用されており、多くの緑が繁り朝方の散策に利用されている。野中公園は白の日出町と旭町の境に位置し、幼稚園の運動会や週末の少年ソフトの練習、試合等に利用されている。

㉒大分工業高等専門学校



工業高等専門学校は職業に必要な能力を育成することを目的に、昭和37年（1962年）に設置された。大分では昭和38年、大分県立鶴崎高等学校の校舎を一棟仮校舎として開校された。昭和39年、現在地に移設開校。教職員宿舎は東原に位置しているため、明野団地に最初に入居されたのは教職員の家族であった。高等の高度な機能と明野の自治活動の連携力が期待されている。

㉓テント販売（現・あけのアクロス立体駐車場）



明野センター（現・あけのアクロス）がオープンする前、現在の立体駐車場（明野地区公民館）の地で、昭和45年（1970年）10月から日常生活食料品のプレパテント販売が始まった。それまでは西町に大分ショッピングセンターが店だけだった。日常生活の中で主婦の最大の関心事であった買い物物の利便性が飛躍的に向上したテント販売であり、昭和46年の現在地でのオープンに繋がった。

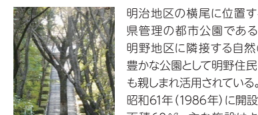
㉔明野中心部（アクロス周辺）



昭和46年（1971年）10月明野センター（現・あけのアクロス）のオープンに合わせ、公的業務機関が次々開設され、明野団地生活の利便性は飛躍的に拡充され、明野生活圏の中心となった。その後の人口増大に対応する形でアクロスは改修や拡張されていたが、アパートの老朽化の建て替え構想もあって、中心部の再開発事業に取り組みることになった。

その地区計画は、住宅ゾーン、タウンセンターゾーン、健康ふれあいゾーンとして、平成18年（2006年）に開発し、それぞれ機能分担して賑わいみそけている。昭和50年（1975年）、明野東小学校より分離独立し、児童数605人で開校。令和3年（2021年）、開校50周年を迎えた。

㉕高尾山自然公園



明治地区の横尾に位置する県管理の都市公園である。明野地区に隣接する自然の豊かな公園として明野住民にも親しまれ活用されている。昭和61年（1986年）に開設、面積60%。主な施設はキャンプ場、集会室、お花見広場（桜の木が多い）、郷土植物園、ふれあい広場、森林の森、花木園など。ウォーキングに遠方からの来園も多く、特に健康づくりを活用する365日の階段は有名。

㉖日本製鉄のスポーツ施設



日本製鉄の大分進出に伴い従業員家族が増えと共に、従業員の福利厚生施設やスポーツ活動の拠点として、グラウンドや体育館が建設された。さらにグループ企業や明野団地の住民にも開放されたことから、明野地区はスポーツ活動が活発な地域として評価もされていた。特に、明野住民全体を対象としたスポーツ行事の利用に最適な施設である。

㉗明野地区の市立小中学校

明野団地に入居が始まった昭和42年（1967年）当時、明野には小中学校はなかった。小学生はスクールバスで明治小学校へ、中学生のほとんどは城東中学校へ通学していた。

明野西小学校



昭和46年（1971年）、明野西小学校が明治小学校より分離独立し、児童数876人開校。令和2年（2020年）、開校50周年を迎えた。

明野中学校



昭和47年（1972年）、明野中学校は、生徒数402人で開校。令和3年（2021年）、開校50周年を迎えた。

明野東小学校



昭和47年（1972年）、明野西小学校より分離独立し、児童数605人で開校。令和3年（2021年）、開校50周年を迎えた。

明野北小学校



昭和50年（1975年）、明野東小学校より分離独立し、児童数436人で開校。令和6年（2024年）、開校50周年を迎える。

明野の年表

明治22年	市町村制により明治村が置かれる	明治村猪野山は人家は少なく松林と雑木が群生する原野	入植42戸で明野の開拓が始まる。（明野のあゆみより）
昭和20年	第二次世界大戦終戦、開拓者の入植が始まる		
昭和23年	開拓農業協同組合設立準備会において開拓地を「明野」と命名		
昭和24年	道路整備を開始		
昭和29年	5町村の合併により鶴崎市発足（鶴崎町、松岡町、高田村、明治村、川添村）		
昭和36年	明野開拓地を大分鶴崎海工業地帯の住宅用地として県が指名、買収		
昭和38年	6市町村の合併により新大分市発足（大分市、鶴崎市、大南町、大分町、坂ノ市町、大在村）		明野に小学校が無いので、明治小学校までスクールバスで通学。 [学生が通学に困る] 新聞記事
昭和39年	大分工業高等専門学校が明野に移転		
昭和40年	明野第1工区造成開始		
昭和42年	明野第2工区造成開始		
昭和43年	明野第3工区造成開始		
昭和44年	警察駐在所開設		
昭和45年	第1回明野まつり開催、明野第5工区造成開始		昭和44年明野に初めての病院が開院 [明野に古賀医療院] 新聞記事
昭和46年	明野西小学校開校、明野センターオープン		昭和46年明野センターオープン（現・あけのアクロス） [あけのアクロス] 新聞記事
昭和47年	明野東小学校開校、明野中学校開校、明野派出所開設、明野消防署開設、明野出張所開設		移動販売車で買い物をしていた。 [冷たい肉類] 新聞記事
昭和48年	明野地区公民館開校（まきの幼稚園内）		
昭和50年	明野北小学校開校		
昭和51年	大分高等学校が明野高尾に移転		
昭和53年	「明野音頭」制作		
昭和54年	第1回明野大体育祭開催		
昭和61年	高尾山自然公園開設		
昭和63年	明治明野公民館開校		
平成6年	明野まつり25周年、明野社協結成20周年式典開催		
平成7年	明野交番移転		
平成8年	市道萩原明野線全線開通、明治明野公民館「こどもルーム」開設、第1回明野芸能祭開催		昭和54年明野地区の人口が初めて2万人を超える。
平成10年	明野西小学校体育館完成		
平成13年	大分スポーツ公園総合競技場完成		
平成14年	中央消防署明野出張所完成		
平成15年	明野東小学校体育館完成		
平成18年	「健康づくりのまち明野」実行委員会発足（現・「人が安心・明野創生」実行委員会）あけのアクロスオープン（再開発）		
平成19年	庄の原佐野緑尾尾・明野地区促進期成会結成		
平成26年	明野団地開発50周年記念事業推進協議会設立		
平成27年	明野団地開発50周年記念式典		
平成29年	明野出張所が明野支所となる		
平成30年	庄の原佐野緑 元町・下都工区 「宗麟大橋」開通		
令和2~3年	新型コロナウイルス感染症の流行により、三大行事を縮小・中止とする		令和5年3月末現在、明野地区の人口は2万3千人強で微増の傾向である。
令和4年	明野まつり、芸能祭、スポーツ行事等を規模縮小や簡素化し実施する		

明野地区三大行事



明野まつり

明野大体育祭

芸能祭